

最終黒字維持へ反転攻勢



ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（HD）の業績が回復しつつある。コロナ禍の半導体不足や原材料価格の上昇などにより苦戦していたものの、2期連続で赤字に陥っていた当期損益は2025年3月期に黒字転換した。反転攻勢に向けた取り組みなどを小野有理社長に聞いた。

―23年度まで当期赤字の状況でした。
「22―23年は半導体不足によって、本来収どの自動車機器事業も益の中心となるべき太。営業赤字が続いた。真陽光発電用パワーコンディショナーや蓄電システムなどを手がけるを大事にしてくれる仕事」

ダイヤモンドエレクトリックHD社長 小野 有理氏

エネ事業開拓成長路線に

を受けやすいです。対策は。

入れ先や顔の見える取引に集中し、それ以外をやめていった。これにより収益構造がかなり変わってきた」

―25年度の位置付けは。
「事業再生局面が長かったが、傷んだパラメータも一定程度改善してきた。振り返りも重要。設計案件を獲得するに『24年度が再生を終えた年だった』と言える25年度にしたいが、まだ油断はできない。これまで伸びなかったトリアクターでインバーションをしっかりと伸ばす」

―トリアクションをVシフトが減速傾向にある中、自動車エンジン（汎用品）

シン用点火コイルの重要性が増しています。電動化にリソースを割く企業が多い中、占有率の向上に努め、わたったのが当社だ。点火コイルを作って納入（希土類）規制の影響もなる」

強いリーダーシップに注目

ダイヤモンドエレクトリックHDは2026年3月期連結業績予想で売上高943億円、当期利益2億5000万円を見込む。小野社長は「下方修正をしない1年にする。何とか2期連続で最終益を出す」と強調する。小野社長の強いリーダーシップで成長に向けて弾みをつけられるかどうかに注目したい。

（大阪・新庄悠）

記者の目